



気候変動の影響で

さくらの開花に変化

気候変動は、さくら※¹の開花にも影響しており、年平均気温の上昇が進むと開花が早まるばかりでなく、地域によっては開花しても満開にならないことも起きてくるだろうといわれています※²。

※1：そめいよしの

※2：環境省デコ活 HP から



さくらの開花は早まっている

気象台では、季節の遅れや進み、気候の変化など総合的な気象状況の推移を知るため6種の植物について観測を行っています。

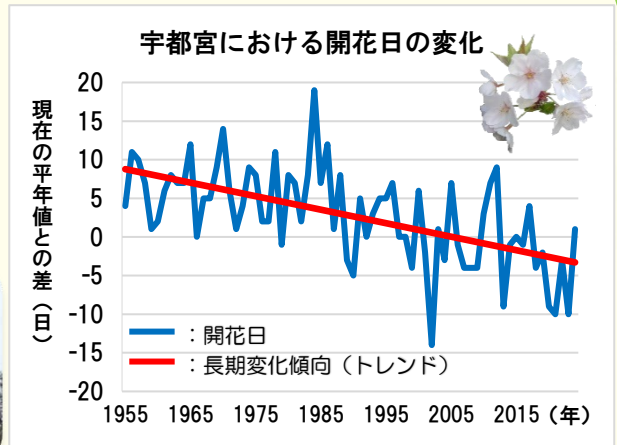
宇都宮地方気象台でも敷地内のそめいよしの(標本木)を目視で観測しており、5～6輪の花が咲いた日が「開花日」になります。

気象庁が公開している過去のさくらの開花日によると、昨年までの70年間で、宇都宮のさくらの開花は9日程度早まっていることがわかります。

入学式を彩ってきたさくらは、卒業式の門出を祝う花になりつつあるようです。



宇都宮地方気象台の標本木



平年値：1991年～2020年の30年間の累年平均値
標本木：開花・満開を観測する対象の木



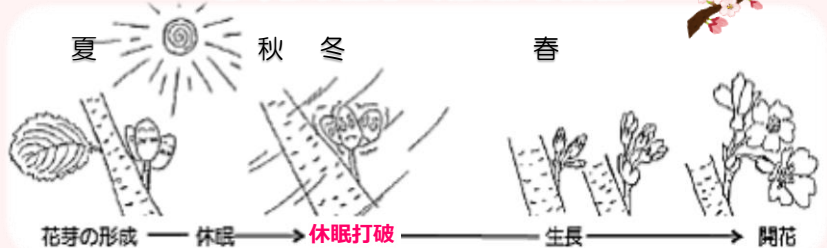
さくらは冬の寒さで目覚める＝冬の冷え込みがないと咲かない

さくらは、夏頃に翌春咲く花の元となる花芽を形成し休眠に入ります。花芽は冬の低温に一定期間さらされると休眠から覚めます(休眠打破)。花芽は休眠打破のあと温度の上昇とともに生長し開花します。さくらが開花するためには、休眠打破をする「寒さ」が必要なのです。

春先の気温が高ければ、さくらの開花は早まります。しかし、温暖な地方では、秋から冬の気温が高めに経過すると休眠打破が十分に行われず、春先の気温が高くても開花が遅くなることが起きます。

温暖化が進むと、「そめいよしの」が開花しない地域が出ると予測する研究者もいます※³。

さくらの花芽 成長から開花



※3：東京管区気象台 HP さくら豆知識から

気候変動の影響は、身近なところでも起きています



栃木県気候変動適応センター通信では、気候変動の影響や適応に関する情報を発信しています！

バックナンバーも御覧ください



栃木県気候変動適応センター【事務局：栃木県環境森林部気候変動対策課 ☎028-623-3187】

気候変動とその影響、気候変動影響による被害を回避・軽減するための適応策に関する情報はセンターHPを御覧ください。

(<https://www.pref.tochigi.lg.jp/d02/tochi-tekiou.html>)

HP



X
(旧 Twitter)